

プラケニル錠 200mg に係る 医薬品リスク管理計画書

サノフィ株式会社

**プラケニル錠 200mg に係る
医薬品リスク管理計画書 (RMP) の概要**

販売名	プラケニル錠200mg	有効成分	ヒドロキシクロロキン硫酸塩
製造販売業者	サノフィ株式会社	薬効分類	873999
提出年月日		令和5年1月16日	

1.1. 安全性検討事項		
【重要な特定されたリスク】	【重要な潜在的リスク】	【重要な不足情報】
眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）	催奇形性・胎児毒性	該当なし
骨髄抑制		
ミオパチー及びニューロミオパチー、心筋症		
重度の皮膚障害（多形紅斑、ステイブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet 症候群）等）		
意識消失を含む重度の低血糖症		
QT 延長、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）		
肝機能障害		
1.2. 有効性に関する検討事項		
使用実態下における有効性（皮膚エリテマトーデス/全身性エリテマトーデス）		

↓上記に基づく安全性監視のための活動

2. 医薬品安全性監視計画の概要
通常の医薬品安全性監視活動
追加の医薬品安全性監視活動
該当なし
3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要
該当なし

↓上記に基づくリスク最小化のための活動

4. リスク最小化計画の概要
通常のリスク最小化活動
追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成及び配布
薬剤師向け資材（調剤及び服薬指導用）の作成及び配布
患者向け資材（服薬指導箋、プラケニル錠を服用される患者さんへ、PTP シートホルダー）の作成及び配布
眼科医に対する眼科検査等の情報提供

各項目の内容は RMP の本文でご確認ください。

医薬品リスク管理計画書

会社名：サノフィ株式会社

品目の概要			
承認年月日	2015年7月3日	薬効分類	399
再審査期間	8年	承認番号	22700AMX00692000
国際誕生日	1955年4月18日		
販売名	プラケニル錠 200mg		
有効成分	ヒドロキシクロロキン硫酸塩		
含量及び剤型	1錠中にヒドロキシクロロキン硫酸塩として200mgを含有するフィルムコーティング錠		
用法及び用量	<p>通常、ヒドロキシクロロキン硫酸塩として200mg又は400mgを1日1回食後に経口投与する。</p> <p>ただし、1日の投与量はブローカ式桂変法により求められる以下の理想体重に基づく用量とする。</p> <p>女性患者の理想体重 (kg) = (身長 (cm) - 100) × 0.85</p> <p>男性患者の理想体重 (kg) = (身長 (cm) - 100) × 0.9</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理想体重が31kg以上46kg未満の場合、1日1回1錠(200mg)を経口投与する。 2. 理想体重が46kg以上62kg未満の場合、1日1回1錠(200mg)と1日1回2錠(400mg)を1日おきに経口投与する。 3. 理想体重が62kg以上の場合、1日1回2錠(400mg)を経口投与する。 		
効能又は効果	皮膚エリテマトーデス、全身性エリテマトーデス		

承認条件	医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。
備考	

変更の履歴	
<p>前回提出日： <u>2022年10月25日</u></p>	
<p>変更内容の概要： 【変更箇所】</p> <p>① <u>1.1項「安全性検討事項」：「重度の皮膚障害（多形紅斑、スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹）」の重要な特定されたリスク、及び4項「リスク最小化計画の概要」：「追加のリスク最小化活動」に記載した医療関係者向け資材及び患者向け資材の【安全性検討事項】及び【目的】に急性熱性好中球性皮膚症（Sweet症候群）を追記するとともに、重度の皮膚障害として例示している括弧内の事象の最後に記載整備のため「等」を追記。</u></p> <p>② <u>追加のリスク最小化活動として実施している医療従事者向け資材（適正使用ガイド）に急性熱性好中球性皮膚症（Sweet症候群）を追記。</u></p>	
<p>変更理由：</p> <p>①② <u>海外市販後に急性熱性好中球性皮膚症（Sweet症候群）の集積がみられたため。</u></p>	

1 医薬品リスク管理計画の概要

1.1 安全性検討事項

重要な特定されたリスク	
眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>ヒドロキシクロロキンは、過去に国内において製造販売されていたが、本剤と同じ4-アミノキノリン化合物であるクロロキン等の高用量での使用により網膜症が発現することが国内外から報告され、市販が中止されていた。</p> <p>しかしながら、本剤を1日平均投与量として6.5 mg/kg（理想体重）を超えない用量で用いることにより、網膜障害の発現リスクは低いことが報告されており、海外では当該用量で長年にわたり臨床使用されている。また、国内試験における評価期間は1年間のため、眼障害の評価は限定的であるものの、詳細な眼科学的検査を含む検討の結果、本剤投与との関連が疑われる網膜障害は認められず、眼障害も多くは報告されていないことも踏まえると、本邦での製造販売後においても、海外と同様の適切な安全対策下で使用される場合には、眼障害の発現を管理することは可能と考える。</p> <p>以上より、承認用法・用量においても、本剤の眼障害のリスクがあり、十分に注意喚起する必要がある。</p> <p>国内臨床試験（EFC12368）において、本剤と因果関係が否定できない眼障害に関する有害事象として網脈絡膜萎縮 1.0%（1/101 例）、結膜炎 1.0%（1/101 例）、硝子体浮遊物 1.0%（1/101 例）及び眼乾燥 1.0%（1/101 例）が認められた。網膜症及び黄斑症は認められなかった。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】 通常の医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後における本剤による眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）の発現状況を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】 通常のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">電子添文及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。 <p>追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">医療関係者向け資材の作成、配布患者向け資材の作成、配布 <p>【選択理由】 本剤における眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）の発現状況に関する情報を医療関係者及び患者に対し確実に情報提供を行い、適正使用に関する理解を促すため。</p>

骨髄抑制	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由： 海外市販後において、貧血、再生不良性貧血、無顆粒球症、白血球減少症及び血小板減少症等を含む骨髄抑制が報告されている。 国内臨床試験（EFC12368）において、骨髄抑制に関連すると考えられる有害事象は認められなかった。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由： 【内容】 通常の医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後における本剤による骨髄抑制の発現状況を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由： 【内容】 通常のリスク最小化活動として、以下を実施する。 ・ 電子添文及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。</p> <p>追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。 ・ 医療関係者向け資材の作成、配布</p> <p>【選択理由】 本剤における骨髄抑制の発現状況に関する情報を医療関係者に対し確実に情報提供を行い、適正使用に関する理解を促すため。</p>

ミオパチー及びニューロミオパチー、心筋症	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>海外市販後において、近位筋の進行性萎縮と筋力低下をきたす骨格筋ミオパチー又はニューロミオパチーが認められている。ミオパチーは投与中止で可逆的な場合があるが、回復には数ヵ月を要する場合がある。</p> <p>ミオパチー、ニューロミオパチーに関連する感覚障害は軽度で、腱反射の低下及び神経伝達異常が認められる。</p> <p>また、海外市販後において、心筋症及びその合併症である心不全が報告されている。</p> <p>国内臨床試験（EFC12368）において、ミオパチー及びニューロミオパチー、心筋症に関連すると考えられる有害事象は認められなかった。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】 通常 of 医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後における本剤によるミオパチー及びニューロミオパチー、心筋症の発現状況を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】 通常 of リスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電子添文及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。 <p>追加 of リスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 医療関係者向け資材の作成、配布 <p>【選択理由】 本剤におけるミオパチー及びニューロミオパチー、心筋症の発現状況に関する情報を医療関係者に対し確実に情報提供を行い、適正使用に関する理解を促すため。</p>

<p>重度の皮膚障害（多形紅斑、スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet 症候群）等）</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由： 海外市販後において、多形紅斑、スティーブンス・ジョンソン症候群及び中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet 症候群）等が報告されている。国内臨床試験（EFC12368）において、本剤と因果関係が否定できない重度の皮膚障害として、薬疹 1.0%（1/101 例）及びスティーブンス・ジョンソン症候群 1.0%（1/101 例）が認められた。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由： 【内容】 通常の医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後における本剤による重度の皮膚障害（多形紅斑、スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet 症候群）等）の発現状況を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由： 【内容】 通常のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電子添文及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。 <p>追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 医療関係者向け資材の作成、配布 • 患者向け資材の作成、配布 <p>【選択理由】 本剤における多形紅斑、スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet 症候群）等の重度な皮膚障害の発現状況に関する情報を医療関係者及び患者に対し確実に情報提供を行い、適正使用に関する理解を促すため。</p>

意識消失を含む重度の低血糖症	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由： 海外市販後において、低血糖症が報告されている。 国内臨床試験（EFC12368）において、低血糖症は認められていない。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由： 【内容】 通常の医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後における本剤による意識消失を含む重度の低血糖症の発現状況を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由： 【内容】 通常のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子添文及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。 <p>追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療関係者向け資材の作成、配布 ・ 患者向け資材の作成、配布 <p>【選択理由】 本剤における意識消失を含む重度の低血糖症の発現状況に関する情報を医療関係者に対し確実に情報提供を行い、適正使用に関する理解を促すため。</p>
QT 延長、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由： 海外の市販後において、本剤との関連性が否定できない QT 延長、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）が認められている。 国内臨床試験（EFC12368）においては、QT 延長、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）に関連すると考えられる有害事象は認められなかった。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由： 【内容】 通常の医薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後における本剤による QT 延長、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）の発現状況を把握するため。</p>

	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】 通常のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子添文及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。 <p>追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療関係者向け資材の作成、配布 <p>【選択理由】 本剤における QT 延長、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）の発現状況に関する情報を医療関係者に対し確実に情報提供を行い、適正使用に関する理解を促すため。</p>
肝機能障害	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>国内及び海外の市販後において、薬物性肝障害（DILI）を含む、本剤との関連性が否定できない Grade 3 以上の AST、ALT、γ-GTP の上昇等を伴う肝機能障害が認められている。</p> <p>国内臨床試験（EFC12368）において、本剤との関連性が否定できない肝機能障害として、肝機能異常 1%（1/101 例）が認められた。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】 通常の実薬品安全性監視活動</p> <p>【選択理由】 製造販売後における本剤による肝機能障害の発現状況を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】 通常のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子添文及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。 <p>追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療関係者向け資材の作成、配布 患者向け資材の作成、配布 <p>【選択理由】 本剤における肝機能障害の発現状況に関する情報を医療関係者及び患者に対し確実に情報提供を行い、適正使用に関する理解を促すため。</p>

重要な潜在的リスク

催奇形性・胎児毒性

重要な潜在的リスクとした理由：

本剤と化学構造及び薬理学的作用が類似しているクロロキンでは、生殖発生毒性が示唆されており、本剤においても催奇形性・胎児毒性（出生児の発育遅延等）が発現する可能性は否定できない。また、分布試験において、妊娠有色マウスにクロロキンの標識体を静脈内投与したとき、クロロキンは胎盤を速やかに通過し、マウス胎児の網膜に放射能の蓄積が認められた。一方で妊娠期間中における SLE 等の活動性病変の亢進や再燃が、妊娠・出産時の母体に影響を及ぼす可能性が指摘されていること、及び海外の診療ガイドラインでは妊娠中を含む SLE の全罹病期間にヒドロキシクロロキンを服用することが推奨されている。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

製造販売後における本剤による催奇形性・胎児毒性を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

通常のリスク最小化活動として、以下を実施する。

- ・ 電子添文及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。

追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。

- ・ 医療関係者向け資材の作成、配布

【選択理由】

本剤における催奇形性・胎児毒性に関する情報を医療関係者に対し確実に情報提供を行い、適正使用に関する理解を促すため。

重要な不足情報

該当なし

1.2 有効性に関する検討事項

使用実態下における有効性（皮膚エリテマトーデス/全身性エリテマトーデス）	
	有効性に関する検討事項とした理由： 使用実態下における有効性（皮膚病変の改善度、倦怠感、筋関節痛の改善度等）を確認するため。
	有効性に関する調査・試験の名称： 該当なし
	調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由： 該当なし

2 医薬品安全性監視計画の概要

通常 of 医薬品安全性監視活動
通常 of 医薬品安全性監視活動 of 概要： 副作用及び文献・学会情報等 of 収集・確認・分析に基づく安全対策 of 検討
追加 of 医薬品安全性監視活動
該当なし

3 有効性に関する調査・試験の計画の概要

該当なし

4 リスク最小化計画の概要

通常のリスク最小化活動	
通常のリスク最小化活動の概要：	
<ul style="list-style-type: none"> • 電子添文に記載して注意喚起・情報提供する。 • 患者向医薬品ガイド 	
追加のリスク最小化活動	
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成及び配布	
<p>【安全性検討事項】</p> <p>眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）、骨髄抑制、ミオパチー及びニューロミオパチー、心筋症、重度の皮膚障害（多形紅斑、スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet 症候群）等）、QT 延長、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）、肝機能障害、意識消失を含む重度の低血糖症、催奇形性・胎児毒性</p> <p>【目的】</p> <p>本剤の安全性の包括的な情報、眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）、骨髄抑制、ミオパチー及びニューロミオパチー、心筋症、重度の皮膚障害（多形紅斑、スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet 症候群）等）、QT 延長、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）、肝機能障害、意識消失を含む重度の低血糖症、催奇形性・胎児毒性の発現状況、早期検出と適切な診断・治療のための情報を提供する。</p> <p>【具体的な方法】</p> <p>MR 等が提供、説明し、資材の活用を依頼する。特に眼障害のリスクについては、新規納入施設への情報提供を徹底し、また既納入施設に対し定期的に情報提供を行う。</p> <p>企業のホームページに掲載する。学会により適正化された資材によりホームページ等への掲載や講演などを通じて周知する。</p> <p>【節目となる予定の時期】</p> <p>市販直後調査期間中は1ヵ月毎に、それ以降は半年毎及び調査・試験結果が得られた各時点において、眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）、骨髄抑制、ミオパチー及びニューロミオパチー、心筋症、重度の皮膚障害（多形紅斑、スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet 症候群）等）、QT 延長、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）、肝機能障害、意識消失を含む重度の低血糖症、催奇形性・胎児毒性の発現件数と販売量の推移を確認する。本結果からリスク最小化策の更なる強化が必要と判断される場合、また新たな安全性検討事項が認められた場合には資材の改訂、配布方法等の実施方法の変更、追加の資材作成等を検討する。</p> <p>報告の予定時期：安全性定期報告書提出時</p>	

<p>薬剤師向け資材（調剤及び服薬指導用）の作成及び配布</p>	
	<p>【目的】 調剤及び服薬指導についての情報を提供する。</p> <p>【具体的な方法】 医療従事者に提供、説明し、資材の活用を依頼する。特に眼障害のリスクについては、新規納入施設への情報提供を徹底し、また既納入施設に対し定期的に情報提供を行う。企業のホームページに掲載する。</p> <p>【節目となる予定の時期】 市販直後調査期間中は1ヵ月毎に、それ以降は半年毎及び調査・試験結果が得られた各時点において、リスク最小化策の更なる強化が必要と判断される場合には資材の改訂、配布方法等の実施方法の改訂、追加の資材作成等を検討する。 報告の予定時期：安全性定期報告書提出時</p>
<p>患者向け資材（服薬指導箋、プラケニル錠を服用される患者さんへ、PTPシートホルダー）の作成及び配布</p>	
	<p>【安全性検討事項】 眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）、重度の皮膚障害（多形紅斑、ステイブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet症候群）等）、意識消失を含む重度の低血糖症、肝機能障害</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本剤により起こりうる副作用及び早期発見につながる自覚症状について、患者の確実な理解向上等の適正使用を促す。 ・ 定期的な眼科検査への受診を促す。 ・ 適切な用法・用量での服用を促す <p>【具体的な方法】 医療従事者に提供、説明し、資材の活用を依頼する。特に眼障害のリスクについては、新規納入施設への情報提供を徹底し、また既納入施設に対し定期的に情報提供を行う。企業のホームページに掲載する。</p> <p>【節目となる予定の時期】 市販直後調査期間中は1ヵ月毎に、それ以降は半年毎及び調査・試験結果が得られた各時点において、眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）、重度の皮膚障害（多形紅斑、ステイブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症を含む水疱性皮疹、急性熱性好中球性皮膚症（Sweet症候群）等）、意識消失を含む重度の低血糖症、肝機能障害（2022年8月追記）の発現件数と販売量の推移を確認する。本結果からリスク最小化策の更なる強化が必要と判断される場合、また新たな安全性検討事項が認められた場合には資材の改訂、配布方法等の実施方法の改訂、追加の資材作成等を検討する。 報告の予定時期：安全性定期報告書提出時</p>

眼科医に対する眼科検査等の情報提供

【安全性検討事項】

眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）

【目的】

本剤で起こりうる眼障害に対して、適切な眼科検査等についての情報を提供する。

【具体的な方法】

医療関係者向け資料を用いて眼科医に対し本剤による眼障害のリスク及び眼科検査等に関する情報提供を行う。また、眼科系学会により作成された使用ガイドライン【ヒドロキシクロロキン適正使用のための手引き】により、眼科医へ情報提供を行う。

【節目となる予定の時期】

市販直後調査期間中は1ヵ月毎に、それ以降は半年毎及び調査・試験結果が得られた各時点において、眼障害（網膜症及び黄斑症を含む）の発現状況を確認する。本結果からリスク最小化策の更なる強化が必要と判断される場合、眼科系学会へ情報を提供し、使用ガイドラインの改訂等を依頼する等、追加の情報提供を検討する。

5 医薬品安全性監視計画、有効性に関する調査・試験の計画及びリスク最小化計画の一覧

5.1 医薬品安全性監視計画の一覧

通常 of 医薬品安全性監視活動				
自発報告、文献・学会情報、外国措置報告、臨床試験及び製造販売後調査より報告される有害事象症例の評価				
追加 of 医薬品安全性監視活動				
追加 of 医薬品安全性監視活動 of 名称	節目となる症例数 ／目標症例数	節目となる 予定 of 時期	実施状況	報告書 of 作成予定日
市販直後調査	該当せず	・販売開始から 6ヵ月後	終了	作成済み (平成 28 年 3 月 提出)
使用成績調査	1,000 例/1,000 例	・安全性定期報告時 ・再審査申請時	終了	作成済み (令和 4 年 7 月提出)

5.2 有効性に関する調査・試験の計画の一覧

有効性に関する調査・試験 of 名称	節目となる症例数 ／目標症例数	節目となる 予定 of 時期	実施状況	報告書 of 作成予定日
使用成績調査	1,000 例/1,000 例	・安全性定期報告時 ・再審査申請時	終了	作成済み (令和 4 年 7 月提出)

5.3 リスク最小化計画の一覧

通常 of リスク最小化活動
通常 of リスク最小化活動 of 概要： <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子添文に記載して注意喚起・情報提供する。 ・ 患者向医薬品ガイド

追加のリスク最小化活動		
追加のリスク最小化活動の名称	節目となる 予定の時期	実施状況
市販直後調査による情報提供	販売開始6ヵ月後	終了
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成及び配布	安全性定期報告提出時	実施中
薬剤師向け資材（調剤及び服薬指導用）の作成及び配布	安全性定期報告提出時	実施中
患者向け資材（服薬指導箋、プラケニル錠を服用される患者さんへ、PTPシートホルダー）の作成及び配布	安全性定期報告提出時	実施中
眼科医に対する眼科検査等の情報提供	安全性定期報告提出時	実施中